

NECソリューションズ

NEC Solutions

事業環境の激変に、堅牢で柔軟に対応できる
システム構築の条件を探る

NEC（NECソリューションズ）
第二ソリューション営業事業本部
主席事業主幹

太田 穰

おおた ゆたか
東京都出身。1970年電気通信大学電子工学科卒。同年日本電気株式会社へ入社。以来キャリア向けオンラインリアルタイムシステムの設計、開発に従事。オープン系ではオープンミッションクリティカル技術をベースにしたキャリア向け顧客料金システム、IPS系システムの設計、開発を担当。通信業ソリューション事業部長を経て2002年4月現職に就任。

2000年4月より、社内カンパニー制を導入したNEC。その狙いは、市場特性ごとに事業を再編し、市場環境即応型の体制を構築することだという。今回取材したNECソリューションズは、社内カンパニーのひとつ。ビジネス領域を中心に、インターネットソリューションを提供するSierだ。本格的なブロードバンド時代の到来に向け、同社の事業戦略とそれを支える技術基盤について、お話を伺った。

企業基幹システム、社会基幹システムに
ダウンは許されない

現在、企業活動を取りまく環境は、市場の急激な変化にさらされています。とりわけ、近年のインターネットの広範な普及と、そのブロードバンド化・モバイル化は、企業活動のグローバル化やボーダーレス化を促進し、顧客のニーズを多様化させています。このような環境下で求められるのは、時代の動きに素早く対応できるスピード経営だといえるでしょう。

しかし、市場の変化をうまく予測し、対応するのは、難しいというのが実状です。インターネットの世界では、常に鮮度の高い情報提供が求められますが、一方で、24時間365日無休のサイト運営が当たり前になっており、システムダウンは許されません。もし、システムがダウンするようなことになれば、運営企業にとって、業務の中断がマイナスであることはもちろん、企業イメージの低下や信用の失墜を引き起こす可能性さえあります。ECサイトはもちろん、金融機関のATMや、製造業であれば生産管理システム、流通業の物流管理システムなども、システムダウンが事業運営上、大きな損失につながります。

そこで求められるシステムは、例えば、あるサーバーに故障が発生しても、システム全体としては業務に支障をきたさない、信頼性と安全性の高いものです。また、市場の変化に即応するスピーディーな構築も要求されます。さらには、新たなニーズに対応する機能の拡張性も重要です。安価な

コストも見逃せないポイントになるでしょう。

従来のシステムにおいても、信頼性・安全性といった堅牢性は欠かせぬ要素でした。しかし、現在はそのクオリティの高さが、これまで以上に要求されています。そのうえ、スピードと拡張性という、これまでにない柔軟性までが求められているのです。

NECはオ - プン・ミッションクリティカルシステムに注力

いま求められているのは堅牢かつ柔軟なシステム

NECソリューションズ(以下、NEC)は、このような時代の状況を踏まえ、情報システムの基盤技術として、オープン・ミッションクリティカルを中核技術と位置づけ、顧客のみなさまにご提供しています。

まず、「ミッションクリティカル」という言葉について説明しましょう。「ミッション」は「使命・任務」、「クリティカル」は「危急の」という意味です。「ミッションクリティカルシステム」は「危急の使命を果たすシステム」となりますが、具体的には「システムダウンが重大な危機を引き起こしかねない業務のためのシステム」ということとなります。先に挙げたECやATMなどが、その具体例です。このミッションクリティカルに対しては、堅牢なシステムを構築することが必須になります。

次に「オープン」ですが、これは「開かれた」という意味で、オープンな技術やデファクトスタンダードの製品を用いて、開かれた情報インフラを構築することを表わしています。スピードや拡張性を満たした柔軟なシステムづくりには、このオープンさが重要です。

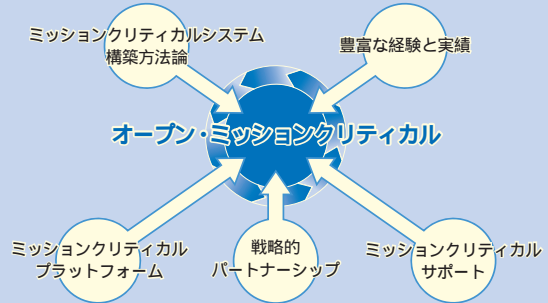
したがって、オープン・ミッションクリティカルシステムの特徴は、一見すると両立の難しそうな、堅牢性と柔軟性をあわせもっている点にあります。24時間365日の連続運転に耐えるだけの高運用性や、予測のつかない業務の増大などにも対応する高性能をそなえながら、同時に、新規サービスやシステムの変更には素早く対応できる、開発・保守の容易性をそなえたシステムなのです。

システム構築の実績とメーカーの強みを合体

NECのオープン・ミッションクリティカルシステムは、豊富な構築実績に支えられています。三井住友銀行様の営業店HUBシステムや、キャリア様顧客料金システムなど、すでに幾多の構築を手がけ、構築方法論を培ってきたのです。現在では、NTTドコモ様次期iモ - ドプラットフォームシス

NECの“オープン・ミッションクリティカル”

豊富な経験と実績をもとにして、システムの企画から運用までトータルにサポートする“オープン・ミッションクリティカル”を提供



テム、金融機関のオ - プン勘定系の開発に協力させて頂いています。

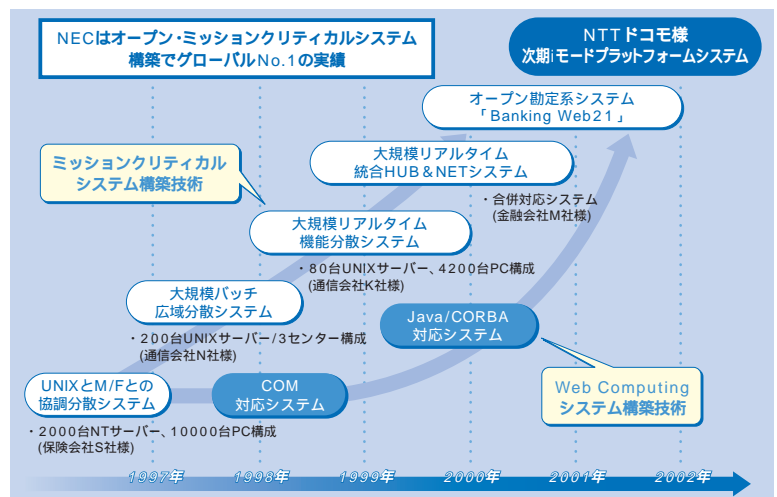
また、クラスタリング技術などを中核としたミドルウェア、ハードウェア、ソフトウェアの製品群を独自に用意するとともに、日本ヒューレット・パカード社や日本オラクル社、日本BEAシステムズ社など、各領域のナンバーワン企業とアライアンスを組むことで、戦略的なパートナーシップを実現しています。

そして、NECならではの強みといえるのが、万全のサポートサービスです。顧客のニーズレベルに応じた、きめ細やかなメニューを用意して、業務の連続性が損なわれないサポートを実施しています。

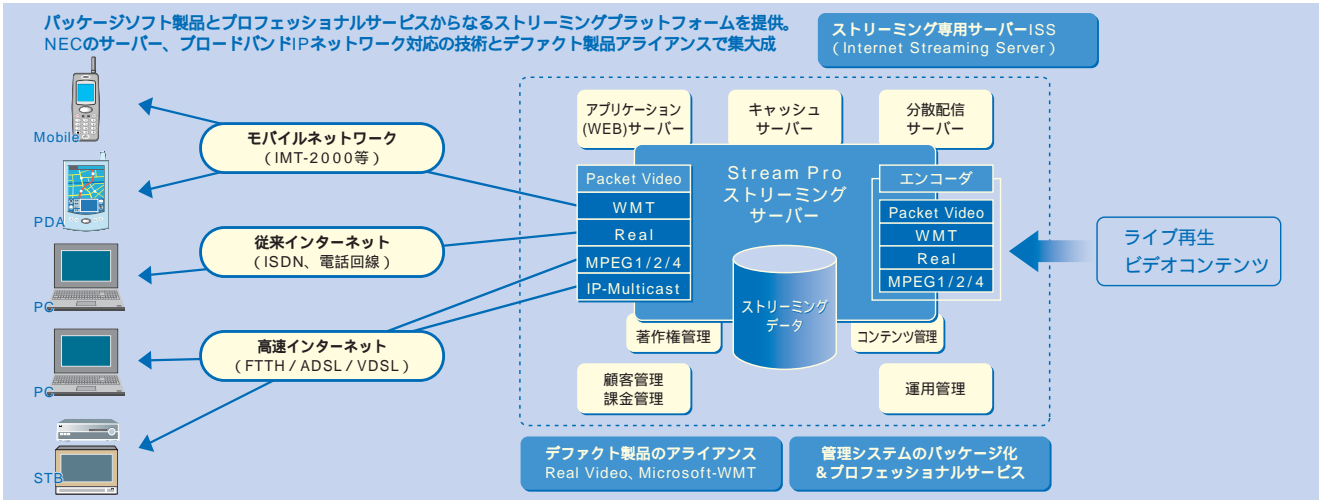
デファクトスタンダードの製品を組み合わせ、システムをつくるということなら、商社でもできると思われるかもしれませんが、実際の運用でシステム障害が発生した場合、NECはシステム全体をSlerとしてトータルにサポートできます。パートナー各社との強力な連携で、迅速な障害復旧が可能です。また、テクニカルスキルを蓄積していますから、障害の未然防止策も徹底できます。

しかし、単に製品を組み合わせでシステムを構築した場合、障害復旧に際しては、各ベンダーのサポートを、製品ごと

オープン・ミッションクリティカルシステムへの取り組みと実績



映像配信システムイメージ



に切り分けられた形でしか受けられません。全体の系なかでトラブルが発生すると、パーツ単位で調べても、なかなか原因は解らないものです。つまり、調査に時間がかかってしまいます。責任範囲が不明確になるケースも多いでしょう。それでは、ミッションクリティカルに対応できません。

もう一点、NECはメーカーとしての強みももっています。オープン系OEM製品に関しては、当社の工場出荷前検査を実施し、不良品をチェックしています。品質の高い製品だけを、顧客にお届けしているのです。実際、この検査によって返品するものがあります。ですから、同じパーツでシステムを構築しても、NECが手がける場合と、買い集めたものを単に組み合わせるのとでは、システム全体としての品質の信頼性に格段の差が出るのです。

ブロードバンドではまだビジネスモデルが未確立

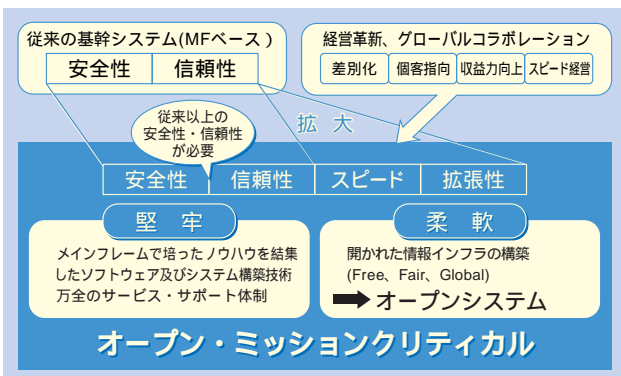
NECはブロードバンドとモバイルの分野でも、ミッションクリティカルなインフラを構築するお手伝いから、アプリケーション領域までを網羅した、ソリューション提供をおこなっています。当社は、NTT様のマルチメディア実験や

長野冬季オリンピック時のライブオンデマンドの開発、旧香港テレコム様ITVサービス開発などに協力させていただき、技術を蓄積してきました。例えば、映像配信では、MPEGやRealVideo、WindowsMediaなど、ストリーミング方式の違うサービス情報を統合管理する「StreamPro」や、著作権の保護・管理システム「RightsShell」など、当社独自のソリューションを築き上げています。こういった開発実績を評価していただくことで、現在もNTT-BB様をはじめ、さまざまなキャリアやISP、ASPなどのサービス事業者のブロードバンド事業開拓に協力させていただいております。

ただ、ブロードバンドに関しては、プラットフォームの整備が進んではいませんが、利益を生むビジネスモデルは、まだ確立していないのが現状でしょう。プラットフォームの上で踊るプレーヤーが、不足しているといいたまいますか。現状のプラットフォームはPCをベースにしていますが、これが家庭のテレビにまで拡大すると、映像配信事業などは一気にブレイクスルーするかもしれません。また、ビジネスシーンでの活用も望まれますし、BtoCモデルからBtoBtoCモデルへの拡張や、コミュニティサービスへの拡張などもきわめて重要だと考えます。

いずれにせよ、コンテンツサービスとインフラ構築、そして誰もが使いやすい端末の開発が一体となることで、ブロードバンド関連事業が総体として規模を大きくできるのではないのでしょうか。

堅牢性と柔軟性とをあわせ持つシステムとは



会社概要

NEC (NECソリューションズ)

出荷高 5兆1010億円¹ (2兆2090億円)
 社長 西垣浩司 (カンパニー社長 金杉明信)
 従業員数 約149,000人² (約49,000人)
 所在地 東京都港区芝五丁目7番1号

¹ 2001年度連結
² 2002年3月末現在 連結